



## 平成25年度一般読書マラソン (100冊読破) の結果発表!

平成25年度一般読書マラソン (100冊読破) 達成者は次のとおりです。(敬称略)

「森本貴士(395冊)・西岡美和(238冊)・鎌田圭奈(220冊)・榎田喜美子(174冊)平ゆかり(173冊)野間末乃・岡本由美子・浜川岩一・晴永清道・積山泰夫・上田義広・鎌田純子・大山巧・安原雅(喜中)・古沼百合子・中芳枝」の16名。

「一般読書マラソン」は読書推進事業の一環で平成25年度から始め、主に一般利用者を対象に“1年間に何冊の本を読めるのか!自分にチャレンジ!普段から楽しんで読書に親しんでほしい”という趣旨の下実施され、66名のエントリーがありました。

又、中学生8名小学生12名が飛び入りでチャレンジしました。

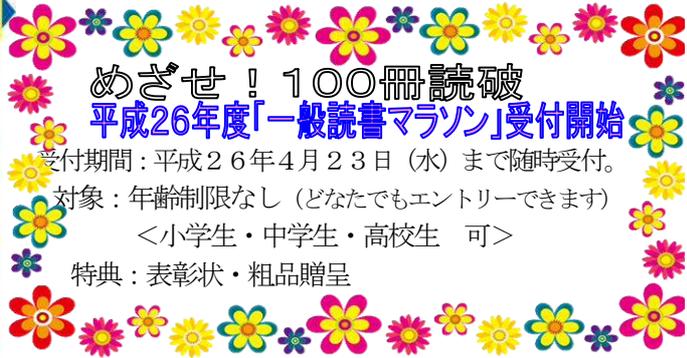
<小学生100冊読破達成者>

「古川すみれ(早小)・吉留七海(喜小)

古川凜(早小)・今井有夏(喜小)」の4名。

※ 3月9日(日)喜界町図書館1階フロアにおいて「100冊読破」上位5名の方々の表彰式があり、賞状と粗品(職員手作りのしおり・図書券)の贈呈がありました。

上位5名以外の達成者の方には来館の際カウンターで賞状と粗品が贈呈されます。



### めざせ! 100冊読破

### 平成26年度「一般読書マラソン」受付開始

受付期間:平成26年4月23日(水)まで随時受付。

対象:年齢制限なし(どなたでもエントリーできます)

<小学生・中学生・高校生 可>

特典:表彰状・粗品贈呈

”喜界町図書館標語“

《 本は家族の一員です!! 》



## 図書館カレンダー(4月)

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |
| 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |    |

※      は、休館日です。  
 ・開館時間 午前10:00~午後6:00  
 ・休館日 月曜日、毎月第1木曜日

## 平成25年度「おはなし会・イベントでダービーチャレンジ! (スタンプラリー) アンパンマンスタンプを10こもらったおともだち

- ☆ 中村吏里 (あゆみ幼) スタンプ21個 12冊借りれます
- ☆ 吉留七海 (喜小) スタンプ10個 11冊借りれます
- ☆ 実 みゆ (あゆみ幼) スタンプ10個 11冊借りれます
- ☆ 新田ゆずき (あゆみ幼) スタンプ10個 11冊
- ☆ 牧岡おとあ (あゆみ幼) スタンプ10個 11冊
- ☆ 中村こうき (あゆみ幼) スタンプ10個 11冊
- ☆ 尾崎 駿 (喜小) スタンプ10個 11冊
- ☆ 尾崎 葵 (あゆみ幼) スタンプ10個 11冊
- ☆ 野間 翔 (喜小) スタンプ10個 11冊
- ☆ 山倉一誠 (喜小) スタンプ10個 11冊
- ☆ 旭 善 (喜小) スタンプ10個 11冊

特典:スタンプ10コで貸出冊数が1冊ずつ増える・くまもんシールがもらえる



※ 10ポイント達成のおともだちは図書館に来たときカウンターで頑張り賞(粗品)を贈呈します。

## 平成26年度はたくさんのおともだちのチャレンジをまっせ〜。

◎ 平成26年4月5日(土)のおはなし会からスタート!!

◎ **スタンプカードはカウンターでもらえます。**

## 2月の統計

- ・貸出し冊数 3,873冊  
累計 47,382冊
- ・来館者数 1,213名  
累計 21,100名

## 《喜界島の歴史・伝承・伝説を探る》～3月号～

### 喜界島の謎・幻の時代（古代より近世の世界）

応神天皇（205～289年）のころ、奄美大島北部から見て東の海上に位置し、太陽が先に昇る平坦な喜界島を神が棲む島と古代人は、呼びとなえていたといわれている。百之嶽（台）近くの高台に昔の集落を持つ志戸桶集落の志戸桶という字は、シトケ（神島）のこのシトケの語の音がなまって志戸桶になったものであろうと、奄美の地名学や考古学を研究している牧野哲郎氏は説明している。

また以前に九学会の人類学者が、日本人の母体となっている筑前大島（今の福岡県の北西部）の島民と比較し、城久、滝川を中心に人骨を調査した結果、内地人的特徴を濃厚にしていると総括している。このころは北九州からの南下説が強く9世紀から11世紀半ばまで、太宰府が南島経営の拠点を下させ、何らかの所職を置いていたとする見解（亀井明德氏2006年）、多祢島の廃止（824年）によって南島の朝貢（外国人が来朝して貢ぎ物を奉ること）確保のために「キカイガシマ」＝喜界島を拠点化し、さらに11世紀からは九州勢力の南島経営が拡大し移住者集団の直接支配が行われたという見解（池田榮史氏2006年）がある。また、城久遺跡群の担い手は日本古代国家の太宰府官人や九州の在地勢力であり、9世紀後半から10世紀前半は朝貢を促す存在で、11世紀後半から12世紀前半は生産物の交易の管理・統制と経済的権益の獲得へと性格を変え、時には軍事的機能を備えたとする見解がある。（鈴木靖氏2007年）

また、城久遺跡群には「国家」的（太宰府的）様相が濃厚に認められ、しかも、本当のところは、生活のための仕事を伴っておらず、休息的な意味が強いと考えられることから、初期の造営指導者は、遣唐使であった可能性が高い、（中島恒次郎氏2008年）といわれている。 文責（登山 典壽）（翌月号に続く）

引用文献資料：古代末期の境界世界～城久遺跡群と石江遺跡群を中心として～ ヨーゼフ・クライナー 編者他、  
南島郷土誌 倭の古代からワチャーシマ・ワンナームラまで 井上 忍 著



## 新 着 図 書



「じゃって方言なおもしろか」木部 暢子著  
標準な言い方が自然という思い込みから解放してくれる一冊になるかも。



「おたまじゃくしのしょうがっこう」かこ さとし著  
オタマジャクシの101ちゃんが小学生になり、ことばやさんすうの勉強に励みます。



「ぎやまん物語」北原 亜以子著  
秀吉への貢ぎ物としてポルトガルから渡来したギヤマンの鏡。鏡に写り込むのは、江戸という時代の色と、人々の心模様。2013年3月に急逝した著者が10年あまりかけて描いた一大江戸絵巻。



「なぞなぞフッフー」武田美穂 著  
足が一本、目が三つ、いつもピカピカ、これなんだ？なぞなぞ合戦は、ドンドン エスカレートしていった。。君は、解けるか



「春、戻る」瀬尾 まいこ 著  
結婚を控えたある日、私の前に兄を名乗る青年が。。明らかに年下の「お兄さん」。人生で一番大切なことを教えてくれるハートフルウェディングストーリー。



「ひそひそ森の妖怪」富安 陽子著  
九十九さん一家は、7人家族。人間に交じって団地暮らし。人間が妖怪と仲良く暮らすお手伝いをしていて、地域共生課の新しいスタッフとして長男ハジメ君も活躍する？



「約束の海」山崎 豊子 著  
「永遠の0」と日本人 小川 榮太郎 著  
「ユタ神誕生」 福 寛美 著  
「生まれてこなくていい命なんてない」 岩元綾著  
「いのちつながる徳之島」 徳之島虹の会 著



「きょうりゅうじゃないんだ」 斎藤 洋 著  
「ミシンのうた」 こみね ゆら 著  
「ジバンニの島」 杉田 成道 著 ほか